



パンコク市内の国連センターで行われた第15回ウェーサク祝典。開会にあたり上座部、大乗の折りが挙げられた。(5月27日)

学長・代表・コーディネーターコメント

経済には精神性が必要

ブル・フランパンティットMCU学長、ICDV議長 参加した。ある学者は、物事を物語るには哲学をもつてなければならぬといふ。そこでグローバル経済と仏教はどうかわかるのか。精神的なもののがなければ経済はよくならない。仏教には生きるために哲学がある。グローバル化の中で、そこに仏教の役割と貢献があると思う。

一神教の人たちと一緒に

ITRI代表の松本廣氏、このウェーサクが始まった当初、(ブル・フランパンティット)言葉が言えたことは、「コメを食するの大乗仏教も上座部もヒンズー教も關係ない。コメを食する人間が輪になって仲良くしていることを世界に発信して、神教の人たちがそれを見て、自分たちも仲良くしようという気になってくれればいい。それを実現するが自分の希望だ」とおしゃった。大乗も上座部もお祈りさまでございました。お祈りさまでございました。1999年12月の国連決議でウェーサクが採択され、これが初めてから徐々に参加国が増えてきました。それがアシア圏にとどまらず、南北アメリカ、オーストラリア、ヨーロッパなど広がってきています。ウェーサクを通じて、日本人の心を一つに結んでいます。世界中の心を一つに結んでいます。これが仏教の使命です。

日本の若者は“フェイス”取り戻せ

ITRIコーディネーターのアーニル・バクシ氏、日本の若い人们は仏教に興味を失っていない。仏教書を読んだりはしていないが、こうした新しいイ奈ベイントは興味を持ってもらいたい。お祈りさまでの教えは合理的で、物事をよく捉えることができる。「仏教＝フェイス(Faith, 信仰、信心)」です。フェイスがなければ両親や学校の先生を尊敬できない。タイやブータンでは仏教が生活中にある。フェイスがある人は誰も使用しない接客や映画監督兼俳優。映画「ボンベイtoナガヤ」で登場して祈りを捧げるITRIメンバー(2014)

トモ

</